

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		練馬区立こども発達支援センター		R8年4月8日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	1	・狭い部屋が必要なクラスは、つい立てでくぎったりしている。 ・人数に対して広いクラスもあり、ついたてで半分に仕切り、利用している。 ・部屋が広すぎるので、静と動で部屋を環境設定出来るとよい。	・ついたても可動式にして、広く使う活動の時に臨機応変に構造化を図る。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	1	・安全を優先して職員配置を検討していると思う。 ・こどもの様子や活動内容によっては、職員の数足りないことがある。 ・こどもの状態により、必要時に職員を増やしている。	・安全と構造化を図り、こどもの状態、活動によっては職員の人数をその日だけ増やすことも検討する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	2	・トイレの改善	・トイレはプライバシーの観点から改善は必須なので今後進めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	1	・同クラスの職員間で話し合っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	2	・クールダウンができるように、必要に応じて空いている部屋を使用したり、部屋の中につい立てを置く。 ・クールダウンできるスペースを確保している ・部屋に仕切りをおき、スペースを作ることがある。	・ダンボールのつい立てはこどもが倒すことが可能なため、高さや材質など検討していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	6	・その日のうちに振り返りができるようにしている。	・次のクラスの準備のため振り返りが難しいこともあるが、出来るだけその日のうちに振り返りができるように周知していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	0		・引き続き自己評価やモニタリングの機会を通してニーズを把握し業務改善につなげられるように努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	4	・意見を把握する機会は設けているが、業務改善に繋がっているかは不明。	・係会の中で課題を共有し、様々な視点から検討し、業務改善に努めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	0	・業務改善に繋がっているかは不明。	・定期的な外部評価を行い、よりよい支援につなげていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	0	・日々の業務が忙しく、研修に全部の時間、参加できないこともあるので、後日動画を視聴している。	・職員全体の研修状況を把握しながら業務とのバランスを考えながら取り組んでいく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	0		・引き続きこどもや保護者にわかりやすい支援プログラムを作成していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12	0		・保護者からこどもの様子やニーズを丁寧に聞き取り計画に反映し作成する。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0	・必要に応じて、ケースカンファを行い、共通理解を図っている。	・専門職と連携を図り、児童発達支援計画を検討し作成する。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	0	・クラスミーティングで共有されている。	・支援後の振り返りを周知し、次の支援に活かせるよう共有していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1		・振り返りの中で確認された行動、特性、反応、適応状況などは丁寧に記録して、職員で共有していく。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12	0		・クラス内でミーティングを行い、こどもの発達、課題に合わせてプログラムの立案を行う。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12	0	・子どもの成長に応じて、定期的に同クラスの職員間で話し合っている。	・引き続き、こどもの成長に応じて工夫していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12	0		・発達状況に応じて支援し、職員間で共有、検討していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	2		・リーダーには打ち合わせを周知し、時間の確保を検討し実行していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	1		・次のクラス準備ですぐに振り返りができない時も、その日のうちにできるように時間を確保し、実行していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	0		・事実→支援→結果の記録をベースに支援の今後につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12	0		・必要に応じて児発管が参加し、子どもの支援につなげていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	1	・必要な児に対して、園連携訪問を行っている。	・引き続き、必要に応じて、医療、園、学童、学校との会議に出席し連携していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	0		今年から本格始動の園連携訪問を、安定して行えるようにしていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	2	・就学支援シートを基本とし、必要な児は、学校側の担当と、情報共有を図っている。	・必要に応じて、学校との連携を行っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	8	4		・今後、他の児童発達センターなどと情報共有をし、連携し、地域全体の質の向上を図る。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	12	0		・外部研修への参加を経験年数ごとに参加できるようにしていく。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	9		・今年度から、管理者、副管理者が会議の参加をしている。職員への周知をしていく。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	9	・園の行事に行かせてもらうことはあるが、活動を一緒に行うことは、難しい。	・未就園児クラスの参加は、無理のない範囲で検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	3		・区で行うものを、今後も提示版などで保護者にお伝えしていく。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	0	・家族へ向けた研修の機会や情報提供の機会を設けている。 ・専門職が講師となり、保護者向け動画を配信している。	・引き続き、わかりやすい説明を行う。 ・保護者向け動画については、1回あたりが見やすい長さになるよう検討していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点の踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12	0	・児発管が丁寧に行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	1		引き続き、クラス時間に必要に応じて、別室で面談を行う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	8	・クラス担任、児発管が行っている。	・未就園児クラスでは今後も工夫しながら行っていく。きょうだい同士の交流は、区で開催している会の情報を提供していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	1		・今後も必要に応じて面談を行っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	7		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	0		
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	7	・日本国外出身の保護者で、日本語の理解が難しい方々への対応には工夫を凝らしていると思う。		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1		・毎年、マニュアルを見直し、様々な事態を想定した訓練を実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12	0		・看護師を中心に職員で情報共有していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	2	・給食を食べる児で、アレルギーの児がいないため、対応したことがない。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	2		・引き続き、利用時の契約書で保護者に説明していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	0		・報告で終わらないように、その後の対応を共有していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	2	・別の用紙でいただいている。	・個別支援計画に記載するよう検討する。